

心豊かな科学技術立国に向けて

核融合科学研究所長

飯吉厚夫

Dr. Atsuo IIYOSHI
Director-General
National Institute for Fusion Science

世紀末に、来たるべき新世紀の方向を左右するような大きな出来事がよく起こることは歴史が示すところである。最近のソビエト、東欧の大きな変化もその一つと言ってよいだろう。現代のように世界中が相互に深く結びついている状況ではこのような世界の急変する出来事を直視し、臨機応変に適切な対応をしなければならないことは当然のことである。しかし一方で、その背景にある大きな歴史の流れを見通し、21世紀に向けて我国の進む道をさぐることも大切であろう。

最近では、我国が好むと好まざるとに拘らず、世界の眼は生産大国、経済大国日本に向けられており、これからも我国に対する期待はますます大きくなるであろう。また、21世紀には、日本がリーダーシップをとる時代がやってくるとも言われている。

日本がこれに答えていくためには、まず経済発展の原点とも言うべき技術力に一層の磨きをかけていくことが何よりも大切であろう。しかるに、最近の我国は好景気に恵まれ、あり余る経済力で世界の土地やビルを買いあさったり、マネーゲームに一喜一憂するなどの現象が多く見られ、経済大国のよって来たる原因が、我国の優れた技術力にあることを忘れていなければよいがと思うときがある。技術で貯えた富は技術にフィードバックするという基本を忘れると、やがて技術力は低下して、技術立国は減びてしまうであろう。

我国の原子力技術を見てもわかるように、技術改良の積み重ねが安全運転の実績につながっているのであり、技術開発へのたゆまぬ努力と投資が、より安全で成熟した技術の確立につながるのである。技術には不断の努力が欠かせないのである。

我国の高い技術力は、企業間の厳しい競争原理の中から生まれ、また明日への技術開発投資によるところが大きい。更に、宇宙、加速器、核融合などのビッグサイエンスへの取組みの姿勢が、その国の科学技術へ



の理解と意気込みを示すのであり、また、その波及効果として、技術力のレベル向上に寄与するところも大きい。ビッグサイエンスは巨費を要し、開発リスクも多いので、明確なビジョンとプログラムをもって、国家プロジェクトとして引き続き積極的に推進することが必要であろう。

日本が、世界のリーダーシップをとる大国に成長するためには、科学技術立国として経済の発展をはかるだけでは十分でなく、これからは、その科学技術力を活用して、世界に横たわっている多くの難題を解決するために貢献していく積極的な姿勢をもつことが大切であろう。特に、新エネルギー、地球環境汚染などの困難な技術開発に率先して投資することが何よりも大切なことである。

加うるに、世界のリーダーとしてふさわしい国民としての品性と風格を備えるための努力も忘れてはならない。日本古来の美しい心と、きめこまかい感性を大切にした教育のあり方についても、もっと知恵を出さなければならない。心を大切にする文明は、科学技術文明と相入れないように考えられがちだが、科学技術は豊かな社会を創るための手段であることを考えると、心と物との主客を正置した社会の構築は可能であり、心豊かな科学技術社会の建設こそが、日本を世界のリーダーシップへ導く道と言ってよいであろう。

この原稿を書いている時に、イラクのクウェート侵攻が始まった。従来から危惧されていたことだが、石油の供給の不安定さを改めて実感することになった。この機会が、化石燃料の依存度の少ないエネルギー自給への道を探り、新エネルギー開発に国を挙げて本格的に取り組む契機となることを願ってやまない。新エネルギー開発の成否が、21世紀への我国の命運を決めるに違いないと考えるからである。